

皆さんは「ISBN」という言葉を知っていますか？もし、今、本を手を持っているのなら、本の一番最後のページを見てみてください。そこにISBNというアルファベットに続いて、10桁の数字が書かれていると思います。

ISBNとは、国際標準図書番号（International Standard Book Number）と言い、本に付いているその本自体の番号です。皆さんが普段何気なく読んでいる本のほとんどに、このISBNが付けられています。国際標準図書番号というぐらいなので、世界中のほとんどの本にこの番号がそれぞれ付けられており、世界でこの番号がついているのはこのタイトルの本だけと言うことになります。

私は、大学4年次生になって図書館で働き出すまで、ISBNの存在自体知りませんでした。しかし、このISBNは実際とても便利なものなのです。例えば、皆さんが図書館でお気に入りの本を見つけて、自分の物として本屋さんで購入したい時に、このISBNを控えておけば、大手書店のWebサイトで簡単に本の検索が出来ます。これは日本のみならず、海外の図書検索サイトでも使えるのです。

図書館の書庫でお気に入りの本を見つけたら、和書でも洋書でも、このISBNで検索して、自分の大切な一冊にするのも良いのではないのでしょうか？是非活用してみてください。



今回紹介するのは国立国会図書館のインターネット蔵書検索システムである「国立国会図書館NDL-OPAC」です。国立国会図書館の蔵書目録としては先に紹介した「J-BISC」がありますが、「J-BISC」はCD-ROM媒体で所蔵している年次分しか検索できない、データの更新はCD-ROMが発行される年4回しかないなどデメリットがあり、また洋図書のデータが収録されていません。その点「NDL-OPAC」は1週間ごとにデータが更新され、またインターネットなのでいつでもどこからでも検索できるというメリットがあります。さらに和図書約306万件のデータに加え、洋図書約90万件のデータや和洋雑誌新聞のデータなども検索することができます。

現在国立国会図書館は東京本館と関西館、

東京上野にある国際子ども図書館の3館からなっています。各館の所蔵している資料は異なっていますが、取り寄せサービスを利用する事により関西館で東京本館の資料を閲覧・複写する事ができます。特に関西館を利用する場合はこのデータベースから利用する関西館所蔵の資料の予約をする事ができ、資料の利用申請が容易なものとなっています。さらに「国会図書館は遠くて利用できない」という方でもこのデータベースから資料の複写を依頼する事ができ、郵送で資料を取り寄せられます。このように「NDL-OPAC」から様々なサービスが受ける事ができるのです。

国立国会図書館は日本最大の図書館であり、本学図書館の蔵書と併せて利用する事で資料収集の幅が広がります。本学図書館ホームページの「データベース検索」ページからアクセスできますので、本学図書館のOPAC同様是非一度利用してみてください。

(機械化推進委員会委員長 宮杉 浩)